

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2023 年 2 月 28 日

事業所名 放課後等デイサービスみらい学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	○十分である。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	71%	29%	○スロープ、トイレの補助機具。 ○賃貸の施設なので制限があるため、不便な所 ○実行後の有効性の検討ができていないかが疑問。客観的指標を用いて評価できると達成があり目に見えて良い気もしますが	×階段に手すりがない。施設自体の規模の影響もあるが、車椅子利用者は室内移動が難しくトイレも狭い。 ×ドアノブやトイレのカギ。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	71%	29%		×全員が参加できていないです。すみません。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	86%	14%		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	86%	14%	○ホームページにR2、R3年のものをのせている。 ○ホームページで公開されている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	43%	57%		
適切な支援	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	○研修に参加し、ミーティングで還流している。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	○子どもの観察や状況を共通理解し、適宜行っている。 ○半年に1回面談を行い（担当者会議含む）、本人やご家族のニーズや状況等を踏まえよう	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
の 提 供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	86%	14%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	86%	14%		×2人で行うことはあるが、2人以上ではない。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	86%	14%	○地域での行事などと組み合わせながら行っている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	71%	29%		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	71%	29%	○子どもの状況や精神状態を考慮し、柔軟に活動を作成している	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	29%	71%	○人間関係が固定化しないようになど配慮しながら役割分担し	×特に細かく役割分担することなく、臨機応変に対応している。 ×その状況に応じて役割が変わる。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	86%	14%	○その日の記録をみんなで共有している。	×その日には行っていない為、その都度スタッフに共有するように努める。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	###	0%		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	71%	29%			
関 係 機 関 や 保 護 者	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	###	0%	○管理官や元児管が参画している。状況に応じて理学療法士も出席している	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	###	0%		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	86%	14%		×必要な子については密にとらないといけないと感じる。 ×いない ×病院と連携をとることはない。 ×医療的ケアが必要な子どもはいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	43%	57%		×いない

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
この連携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	###	0%	○大分クラブと協力している。 ○保護者向けの研修会を開催した。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	71%	29%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	###	0%	○リポート校の生徒と合同イベント開催。 ○通信制高校を	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	86%	14%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	###	0%	○些細なことも連絡し、家庭やデイでの様子を伝えあっている	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	29%	71%		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	###	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	###	0%	○気軽に保護者とスタッフ間が連絡できるツールがあるのは情	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	57%	43%	○12/16福祉的就労の説明会を開催。	×保護者同士の連携はあまりできていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	###	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	86%	14%	○月に1回行事予定表を送り、イベントなどの写真を掲載。	
	35	個人情報に十分注意している	86%	14%		×個人情報を持ち出される事はないが、事業所内でのPCのセキュリティは上げた方が良いと思う。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	###	0%	○言葉や文面など聴覚優位や視覚優位などを配	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	29%	71%		×地域の活動に参加することはあるが、招待することなどはあまりない。
非常	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	86%	14%		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
時 等 の 対 応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	###	0%	○避難経路等、 適宜周知している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	###	0%	○ミーティング で共有している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	86%	14%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	14%	86%	○食物アレルギーのある子どもはいない。	×アレルギーについて個人から聞き取りをしなければならない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	43%	57%		